

ムギ類赤かび病情報第2号

令和4年5月12日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

感染拡大を防止するため、追加防除を実施しましょう。

1 ムギ類赤かび病の発生状況

4月28日に注意報を発表したところですが、県内で本病の発生が拡大しています。

5月上旬に県内10地点20ほ場で行った巡回調査において、ムギ類赤かび病（図）の発病穂率は、2.07%（平年0.26%、前年2.20%）で、過去10年間と比較して2番目に高く、被害の大きかった昨年とほぼ同程度の発生状況でした。また、同時期に県内20地点100ほ場で行った発病状況調査において、発生ほ場率は84.0%（平年33.5%、前年38.0%）で、過去10年間で最も高い発生状況でした。さらに、1穂に複数小穂の発病が確認されたほ場も複数ありました。

2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

ムギ類赤かび病の第2次伝染は発病穂から分生胞子が雨滴による流下や風により飛散することで起こります。名古屋地方気象台5月12日発表の1か月予報によると、天気は数日の周期で変わり、降水量はほぼ平年並の見込みです。しかし、既に発病が確認されているほ場では気象条件により感染が拡大するおそれがあるため、特に注意が必要です。

3 防除対策

収穫まで日数があるほ場については、発病穂からの第2次伝染による被害拡大を防止するため、下表を参考に防除しましょう。また、収穫前日数を考慮し、薬剤を選定しましょう。

表 ムギ類赤かび病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	ストロビーフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	散布	11
	トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内	散布	1
	トップジンMゾル		(出穂期以降は2回以内)		
	ベフラン液剤25	収穫14日前まで	3回以内 (但し、出穂期以降は1回以内)	散布	M7
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	7
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
	トリフミン乳剤	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3
大麦	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	7
無人航空機用					
作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	無人航空機による散布	1
	チルト乳剤25	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	7
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3
大麦	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布	7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jpca.or.jp/assets/file/labomechanism/code_pdf01_2021.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

4 かび毒について

本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけでなく、デオキシニバレノール (DON) やニバレノール (NIV) 等のかび毒を発生させることがあります。このため、麦類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要です。詳しくは、農林水産省が「麦類のデオキシニバレノール・ニバレノール汚染低減のための指針(平成20年12月17日公表) (アドレス：https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/)」を公開していますので、参考にしてください。



図 ムギ類赤かび病発病穂